

図書館だより

2022 vol.12 11月 山辺中学校図書館
～本そのものが好きになる！読書旬間編～
文責：樋口恵理子

読書旬間がはじまります

11月28日～12月9日まで、本年度2度目の読書旬間です。「しおりグランプリ」にはエントリーされたでしょうか。1週目は「ぶどうの森」のみなさんと先生方による読み聞かせ、2週目は図書委員のみなさんによるブックトークが企画されています。本の貸し出しはいつも通り行います。休み時間に宝探し気分でお本を借りてみませんか？

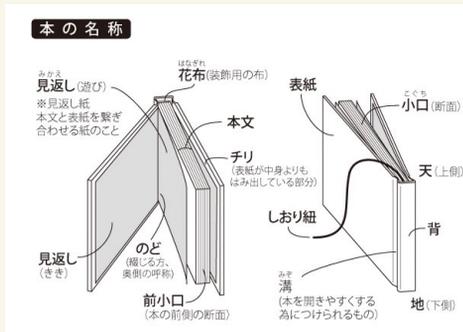


装丁のおはなし

図書館司書1年生のヒグチですが、本は幼い頃から好きです。本の内容はもちろんですが、「本」という存在自体が好きなんです。電子書籍も読みますが、やっぱり気に入った本は紙で買ってしまいます。一種のコレクションですね。

紙の本のいいところの一つが「装丁(そうてい)」。

主に表紙のデザインを指しますが、本の造り・紙質・本文の文字の種類や配列など全て含めることもあり、昨今は「ブックデザイン」とも呼ばれます。手に取りたくるだけでなく、中身を読まなくてもそれがどんな本なのか伝える役割もあります。



▲手づくり製本.comより

●ここに注目！①製本の種類

最近は柔らかい紙で包まれた「ソフトカバー」と呼ばれる本が増えてきましたが、集めたいのは右上の図のような「ハードカバー」。沢山のパーツで出来ているので、それだけブックデザイナーのこだわりが詰まっていると思うのです。



◀『ちいさな手のひら事典 魔女』(ドミニク・フウフェル)は分厚いハードカバー・丸背・天金加工(小口が金箔で覆われている)で本当に魔法書みたい！宝物にしたい一冊。

●ここに注目！②装丁画

本の顔とも言える表紙の装丁画。人気のイラストレーター・絵本作家のもの、アニメ・映画とのコラボなど魅力がいっぱい！本を読んだ後で眺めると、「装丁画家はこの物語をこう解釈して絵にしたのか…」と楽しめます。



◀角川文庫の『人間失格』(太宰治)の表紙を飾るのはアニメ『文豪ストレイドッグス』に登場するキャラクターの太宰治。文豪が異能で戦うバトルものですが、個人的にはギャグ系だと思っています。

●ここに注目！③花布(はなぎれ)

背の上下、内側に付いている小さな布のこと。ちょっと細かい部分ですが、花布までこだわっていると「やるじゃん…」と思います(※オタクの意見です)。見返しやしおり紐の色と合わせてみると嬉しくなりますね。



◀『ハリー・ポッター』(J.K.ローリング)シリーズの花布は全て赤と黄色のしましま模様。これってもしかして、ハリーの居るグリフィンドール寮の色では！？こんなマフラーしてたよね！！

装丁vs図書館

図書館の本の表面に貼ってあるフィルムのことをブッカーといいます。司書になってから知ったのですが、これがお高いんです…！それもそのはず、手アカなどの汚れを防いだり表紙を丈夫にしたりといった効果だけでなく、UVカットもしてくれて、色褪せや劣化も予防してくれるのです。本の寿命が格段に延びます。



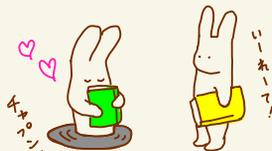
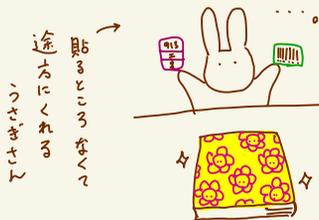
でも、最近の本は本当にブックデザインが凝っていて、カバーを外した中に違うイラストがあったり、紙の質感や立体的な印刷が素敵なものもあって、泣く泣くブッカーをかけることも(こういうところを見つけることを、本を買う楽しみとも言えますが)。本屋さんで見つけたら確認してみてくださいね。

また、背ラベルやバーコードのシールがイラストなどを邪魔しないようにも気をつけています。帯も同様。表紙に溶け込み、内容を教えてくれるものはそのままブッカーをかけていますが、素敵な表紙なら帯は切って見返しに貼っています。図書館として本を保護しつつ、なるべく装丁を殺さないように命懸けです。



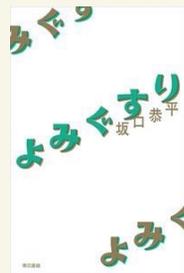
▲『推し、燃ゆ』宇佐見りん

左が帯がついた状態。店頭ではこの方が売れるのでしょう。でもせっかくなのでダイスケリチャードのイラストが隠れてしまうので、帯は背表紙に移動。



▲『シンジケート【新版】』穂村弘

ヒグチユウコの装丁画がプラスチックに印刷してあり、糸の縫い目が見えます。カバーの中、本文の中にもオマケ的仕掛けが。



▲『よみぐすり』坂口恭平
題名にちなみ、お菓子が包んであるような薄い紙のカバーで、表紙の文字がうっすら透けて見えます。本文の太いフォント(文字)は力強いメッセージを感じます。

装丁を愛そう

さて、ここまで読んでたどり着いた方、おめでとございます。装丁沼によろこそ。さらに沼の底へ進むために、「自分で本を作ってみる」なんてのはどうでしょう？伊那市にある美鶯堂製本所では手製本体験ができます。大学の頃参加しましたが、沢山の紙や布に囲まれながら、自分の手の中で本が出来上がっていくのは本当にうれしかったです。おうちで作れるレッスン本も出ていますよ。お手持ちの文庫本に好きな紙を選んで表紙をつければ、ハードカバーに大変身！きっとあなたにとって、もっと特別な一冊になるはずですよ。



▲『美鶯堂とつくる美しい手製本 本づくりの教科書 12のレッスン』美鶯堂

学校図書館から支援する授業（学び）、情報リテラシー

長野市立山王小学校 学校司書 水田香織

2022年10月20日にステップアップ研修『学校図書館から支援する授業（学び）、情報リテラシー』に参加させていただきました。

講師は、長年学校司書として勤務されてきた伊那市の田中喜美江さんでした。内容は、学校図書館ができる授業支援について実践されてきたことを細やかに教えていただきました。

学校図書館には、学習センター、情報センター、読書センターとしての機能があります。今回は、学習センター、情報センターとして機能する学校図書館についてのお話でした。

まずはじめに、学校図書館がおこなう授業支援の目的は、教職員の授業の内容を豊かにして、児童生徒の理解を深めることであることを確認しました。そのために学校図書館ができることは、授業で活用する資料の準備、資料の紹介などがあることを示してくれました。

そして次に、資料準備の方法を具体的に教えていただきました。まず、授業で利用されそうな分野の資料を充実させたら、それらのブックリストやコーナー、パスファインダーなどを作っておくこと。ブックリストやパスファインダーを作ることで、司書の頭の中にも資料として蓄積されていくことなども教えていただきました。

田中さんは、講義の中で、「何もできないと感じても、できることがありますよ。」というメッセージをたくさんくださいました。図書館は資料を用意して待つことが多い環境です。そんな状況の中でも、さまざまなチャンスをさがして、図書館を成長させましょう、といわれました。

田中さんに教えていただいたことから、できることを考えてみました。まず、今年一年間の授業支援としての図書館利用の記録を残す。次に教科書で紹介されている本を中心に必要な資料を整えていく。そして、それらのブックリストを作る。

児童生徒は、学校図書館などにおいて、情報リテラシー（情報活用能力）を身につけることで、生涯にわたって、問をたて、それらについて、学びつづける力を培っていくことができます。学校図書館は、児童生徒が、十分に、学びたい気持ちになれるように、必要な資料を準備し、紹介し、情報の活用の方法を学べる場所に成長しなければならないと感じました。

最後に、学校図書館は、資料や本の収集や紹介を通して、子どもたちに、興味を広げる機会や学びを広げる機会を提供できる場所といえます。自分の役割を大切に、新鮮に必要な資料を揃えていきたいと改めて感じました。

部会だよりは長野県図書館協会ホームページでもご覧いただけます。

長野県図書館協会 小中学校図書館部会だより 第163号
発行日 令和5年3月1日
発行者 長野市若里 1-1-4 県立長野図書館内
長野県図書館協会小中学校図書館部会（代表 川本 修一）